

第95期 年次報告書

2013年4月1日～2014年3月31日

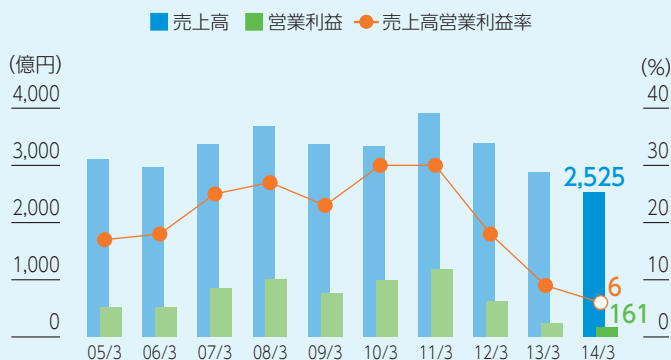
ハイテクガラスで未来をつくる
日本電気硝子株式会社



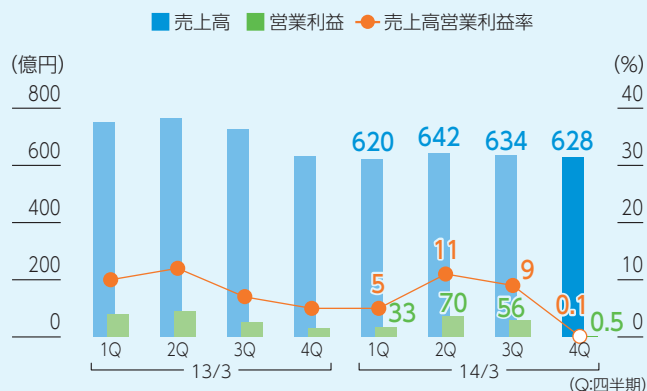
Art by Shinichiro Aikawa

連結財務ハイライト

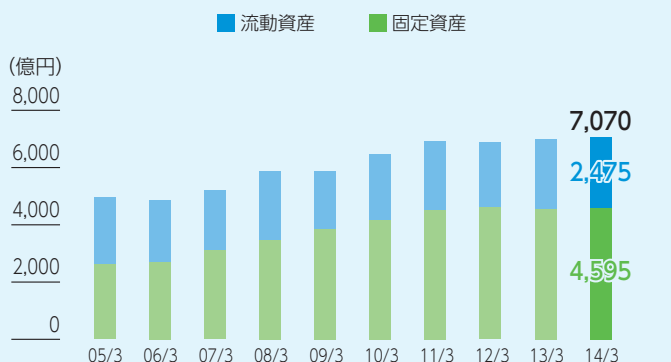
売上高・営業利益・売上高営業利益率



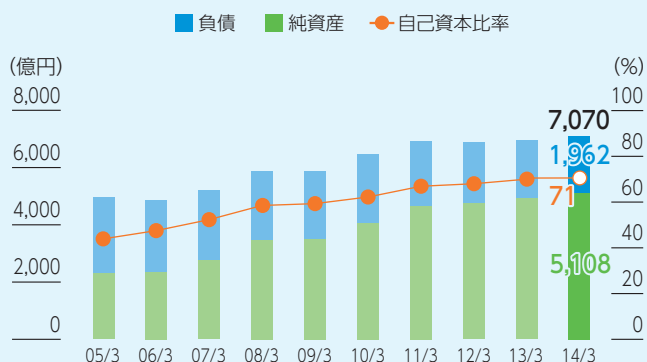
四半期 売上高・営業利益・売上高営業利益率



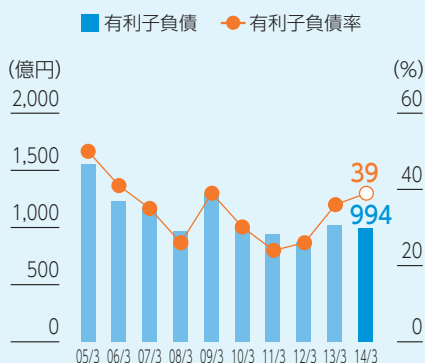
流動資産・固定資産



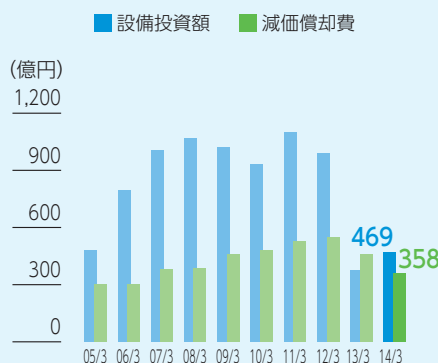
負債・純資産・自己資本比率



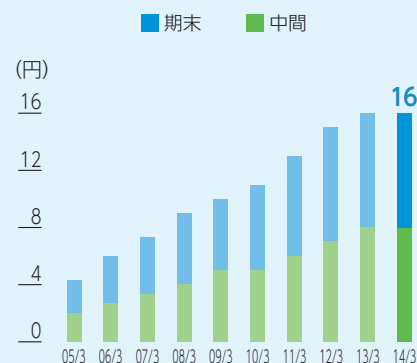
有利子負債・有利子負債率 (有利子負債/売上高)



設備投資額・減価償却費



1株当たり配当額の推移



(注)過去の株式分割の影響を調整のうえ記載しています。

ノンディスプレイの拡大が結実、 反転攻勢を目指す。

社長 有岡 雅行

Q 2013年度の業績について
ご報告をお願いします。

A 当社はこの1年、「生産性向上」「既存事業の拡大」「新製品の拡販」の重点施策に取り組んできました。残念ながら、主力の液晶用ガラスの需要鈍化や価格下落のほか、原燃料コストの上昇、特に第4四半期に集中した電気硝子(Korea)の立ち上げコストなどの影響を受け、業績は3期連続の減収減益となり、この状況を厳しく受け止めています。しかしながら、中身としては、ガラスファイバやモバイル端末用のカバーガラス(化学強化専用ガラス)、太陽電池用ガラスなど、多くの事業で前期を上回る実績を残すことができ、反転攻勢に向けた手応えを感じることができました。

Q 個々の施策の取り組みについては、
どのように評価していますか。

A 「生産性向上」では、ディスプレイ分野で成果を得ることができました。液晶用ガラスでは当社初となる海外の溶融・成形拠点、電気硝子(Korea)が13年夏に生産を開始しました。最新の生産技術やノウハウの全てを結集した結果、国内工場を上回る高い生産効率を実現しました。また、国内工場も生産性の改善が着実に

進みました。

「既存事業の拡大」では、ここ数年の投資が実を結びつつあります。中でもガラスファイバは自動車市場の好調を追い風に、過去最高の売上を達成しました。自動車部品向け高機能樹脂用のほか、セメント強化用ARGファイバも発売開始から約40年を経てその信頼性が実証され、足下で需要が拡大しています。医薬用管ガラスでは、海外市場を中心に販売が好調です。このほか、通信インフラ需要の拡大を背景に光関連ガラスが堅調に推移しました。

「新製品の拡販」では、モバイル端末用カバーガラス<Dinorex(ダイノレックス)>の販売が軌道に乗り、約10%の市場シェアを獲得しました。自動車や医療分野で使用される高輝度LED用の蛍光体ガラス<ルミファス>も、月を追って販売を伸ばしています。

Q 2014年度(※)の取り組みを
聞かせてください。

A 14年度は、業績の反転攻勢が至上命題です。10年度に掲げた事業方針「ディスプレイを強く、ノンディスプレイを大きく」を更に具体化するなかでこれを実現していきます。

ディスプレイ分野では、「生産性向上と海外移転」による

※14年度は決算期変更の経過期間のため14年4月から14年12月までの9ヶ月決算になります(TOPICSご参照)。

部門別の概況

電子・情報用ガラス

モバイル端末用カバーガラスや太陽電池用基板などは増加したものの、液晶用ガラスの需要鈍化や価格下落が影響し売上は前期に比べ減少しました。



モバイル端末用カバーガラス<Dinorex>

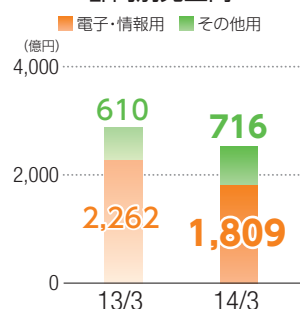
その他用ガラス

自動車部品用やセメント強化用の需要増加によりガラスファイバの販売が拡大。医療、建築、耐熱などの事業も堅調に推移し、売上は前期を上回りました。



医薬・理化学用ガラス

部門別売上高



液晶事業の収益改善が課題です。それには、効率の良いモノづくりが重要です。幸い、電気硝子(Korea)の第一期設備が高い生産性を実現しており、さらに第二期設備も今夏に立ち上がります。一方、今後、液晶パネルは中国での需要拡大が見込まれ、この成長を取り込むべく、本年3月に既存の上海に加え、広州で加工事業を開始しました。さらに、中国では初めての液晶用溶融・成形拠点を福建省・廈門(アモイ)にて15年から稼働させる計画です。これらを通じて、収益性を改善し市場成長を取り込んでいく予定です。また、成長軌道にある<Dinorex>については、市場シェアの20%を獲得すべく拡販に注力します。

ノンディスプレイ分野では、ガラスファイバが自動車部品用、セメント強化用ともに堅調であり、14年度は、生産性を上げ、前年度比10%以上の売上増(12ヶ月換算)と営業利益率10%超を目標に取り組みます。また、将来の需要拡大に備え、新たな生産設備の増強を検討しています。医薬用管ガラスについては、国内市場縮小の影響を受け低調でしたが、昨年来、事業の再構築を推進するとともに海外需要の増加に対応すべくマレーシアの生産能力を強化し、あわせて、成長著しい中国市場において製品認証の取得を進めてきました。いよいよ、今年度から本格的に海外拡販に打って出る予定です。このほか、光関連・電子デバイス用、太陽電池用、耐熱・建築用ガラスについては、需要が堅調に推移しており、これらに的確に対応していきます。

以上の諸課題に取り組むにあたり、14年度は約400億円の設備投資を予定しています。

Q ディスプレー極集中の事業構造に改善の兆しが見え始めてきました。中長期的にはどのような企業像を目指していますか？

A 過去最高益を上げた10年度は、ディスプレイ分野の売上が全体の約8割と、極端に偏った事業

構造でしたが、13年度にはディスプレイの縮小はあったもののノンディスプレイの売上が拡大した結果、ディスプレイが6割強となりました。今後は、ディスプレイの規模は維持しつつ、ノンディスプレイについては、特殊ガラスメーカーとして、例えニッチな領域であっても収益性が高く、しかも世界のトップシェアを持つような事業を数多く育てていく考えです。そして、数年後には、双方の売上がほぼ均等になるなかで、常に安定した利益を上げていくことが目標です。

Q CSR(企業の社会的責任)の活動状況について聞かせてください。

A CSRについては、「地元貢献」、「障害者雇用」、「環境保全」を重点テーマに取り組んでいます。「地元貢献」では、人材育成の観点から「2013びわ湖発明の祭典」へ出展しました(※TOPICSご参照)。海外子会社でも地元のボランティア活動に積極的に参加するなど国内外を問わずグループ全体で積極的に取り組んでいます。「障害者雇用」では、法定雇用率(2%)を上回る水準(3.6%:14年4月末)を維持しており、「環境保全」についても、環境に優しいモノづくりに継続的に取り組んでいます。

Q 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 13年度の業績は厳しい結果となりましたが、皆様からの日頃のご支援に報いるため、配当については1株につき年間16円(前期から据え置き)とさせていただきます。今後も、持続的かつ安定した利益還元ができるよう業績の回復に取り組んでまいりますので、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS

CSR 「2013 びわ湖発明の祭典」に出展

滋賀県内の青少年の科学技術やモノづくりへの興味・関心を高めることを目的とした展示会で、当社からは<見えないガラス>や<Dinorex>などを出展しました。



CSR ショールームを開設

今年3月、当社初のショールーム“P&P Innovation Square”を開設しました。「会社の成り立ち」「現在の製品」「未来の製品」「プロセス解説」の4つのゾーンで構成しています。



ガラスファイバ、第二の事業の柱に

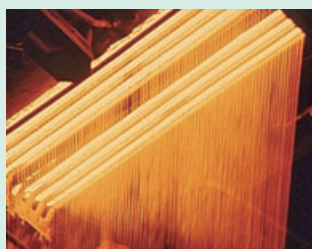
「複合強化」を実現するガラスの糸

当社は、「ディスプレイを強く、ノンディスプレイを大きく」という方針のもと、バランスのとれた事業構造の構築に取り組んでいます。

現在、自動車市場の拡大や建物・交通インフラの整備・拡充を背景に、当社のガラスファイバ製品の販売が堅調に伸びています。今回は、ディスプレイに次ぐ第二の柱として成長を続けているガラスファイバ事業をご紹介します。



ガラスファイバ製品



成形工程 (※)

※スピニング製法…白金のノズルから、太さ数ミクロン（1ミクロンは0.001ミリ）から数十ミクロンの糸を数千本同時に引き出す製法

ガラスファイバは、太さ数ミクロンから数十ミクロンのガラスの糸からできています。樹脂やセメントに混ぜ合わされ、機械的強度に優れた新たな「複合材料」を生み出します。当社のガラスファイバには、主に自動車や電気・電子製品の樹脂部品に使用されるEファイバと、建築・土木分野で使用されるセメント強化用のARGファイバ（耐アルカリ性ガラスファイバ）があります。

エコカーの実現に貢献

Eファイバは、樹脂に混ぜ合わせることで、強度、耐熱性、耐食性、寸法安定性などを高めた高機能樹脂を作り出すことができます。今日、自動車市場では各メーカーが環境・安全・燃費それぞれの性能向上にしのぎを削っており、自動車の軽量化やハイブリッド化の流れが加速しています。

このため、従来、金属製であった部品は、製造面でのエネルギー負荷が小さく、かつ金属よりも軽い樹脂部品への置き換えが進んでいます。Eファイバで強化した高機能樹脂は、エンジン回りの部品やドアモジュールのほか、天井やインパネなどの内装材にも使用され、自動車の軽量化に大いに貢献しています。当社ではその用途に応じて様々

これら樹脂やセメントのガラスファイバによる「複合強化材」の需要は、私たちの生活や社会基盤の水準向上に伴い、今後も着実に増加していくことが期待されています。当社は社会のニーズに的確に応えるとともに、新たな技術開発と用途展開にも積極的に取り組み、会社を支える大きな柱としてガラスファイバ事業を育成してまいります。

TOPICS

FPD China 2014(2014年3月18~20日、中国・上海)

中国での知名度アップと技術力のアピールを目的に、<Dinorex>や超薄板ガラス<G-Leaf>などを出展し、大変ご好評をいただきました。



ITEM 2014(2014年4月11~13日、横浜)

2014 国際医用画像総合展 (ITEM 2014)に出展し、放射線遮へい用ガラス<LXプレミアム>の最大サイズ(H1,200×W2,600mm)など最新技術を紹介しました。





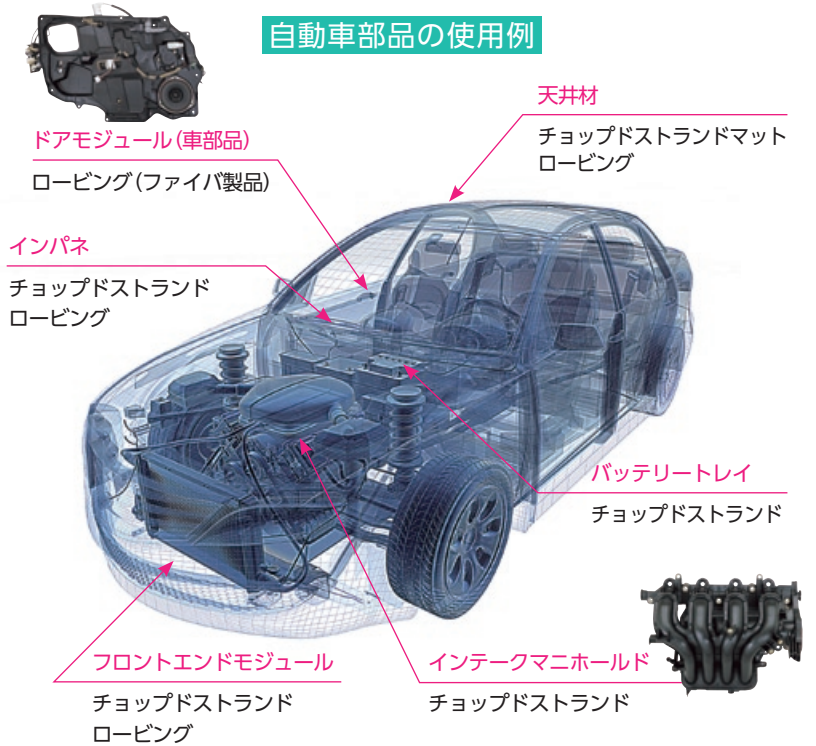
Eファイバ・チョップドストランド

な形態のファイバ製品を作っていますが、中でもガラスファイバを数ミリに切断したチョップ

ドストランドは年々出荷量が増加しており、現在、熱可塑性樹脂強化用途として業界トップの約3割の世界シェアを持っています。今後も着実な伸びが期待できる楽しい製品です。

自動車用樹脂部品以外にも、電気・電子製品や住宅設備機器用の樹脂部材、さらには鉄道線路の樹脂製枕木など、幅広い分野で当社のEファイバは活躍しています。

自動車部品の使用例



モルタルやコンクリートの補強、剥落防止に威力を発揮

ARGファイバは、耐アルカリ性、耐酸性に優れ、モルタルやコンクリートのひび割れ抑制材として用いられています。建築分野では、主に住宅のモルタル壁やビルの外装などに使用されます。ARGファイバを使用したモルタルやコンクリート材料は軽量で、強度があり、しかも複雑な形状に対応でき、デザイン性に優れた建築が実現できます。また、土木分野では、橋脚の補強やトンネル内壁の剥落防止などに使用され、災害に強い交通インフラ網を支えています。

トンネル内壁の剥落防止に使用された例



施工の様子

当社のARGファイバを使用したメッシュ状の部材を表面に打ち付け、ひび割れやコンクリート片の落下を防いでいる。

決算期変更のお知らせ

6月27日開催の株主総会において、決算期の変更が承認されました。当社と国内連結子会社の決算期(3月末日)を海外連結子会社の決算期(12月末日)に合わせることで、グローバル化への対応や事業運営の効率化のほか、より適切な経営情報の開示を図ることを目的としています。これにより、経過期間となる2014年度は9ヶ月決算となります。

2014年度	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
当社及び国内連結子会社	—	1Q	2Q	3Q
海外連結子会社	※	1Q	2Q	3Q

(Q:四半期)

※海外連結子会社の1~3月は、純利益を1Q期首の連結貸借対照表における株主資本の利益剰余金に直接加減するため、連結損益計算書には反映されません。

■ 会社概要

会社概要 (2014年3月31日現在)

設立 1944年(昭和19年)10月31日
 商号 日本電気硝子株式会社
 本社 滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号
 TEL 077(537)1700(代表)
 FAX 077(534)4967
 資本金 32,155百万円
 従業員数 5,275名(連結)
 営業所 大阪・東京
 事業場 大津・藤沢・滋賀高月・能登川・
 若狭上中・精密ガラス加工センター
 主要事業内容 特殊ガラス製品の製造・販売
 連結子会社 国内11社
 海外11社(マレーシア・韓国・台湾等)

取締役および監査役/執行役員 (2014年6月27日現在)

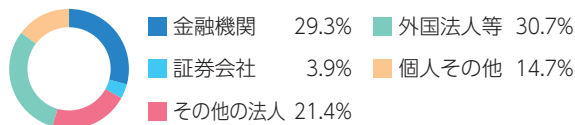
取締役会長 (代表取締役)	井筒雄三	社長執行役員	有岡雅行
社長 (代表取締役)	有岡雅行	専務執行役員	山本茂 稲本耕 松本元
取締役	山本茂 稲本耕 松本元 竹内伯 佐伯宏 竹内伯	常務執行役員	菅本雅 竹内博 佐伯和 久
常勤監査役	宮元信廣 来住富治夫	執行役員	大青浴成 後藤重 金井敏 津田幸 山崎博 前中祐 岸内樹 中川輔 野村生 内秀 川廣 博明
監査役	濱岡峰也 石井和也		

■ 株式の状況 (2014年3月31日現在)

株式に関する事項

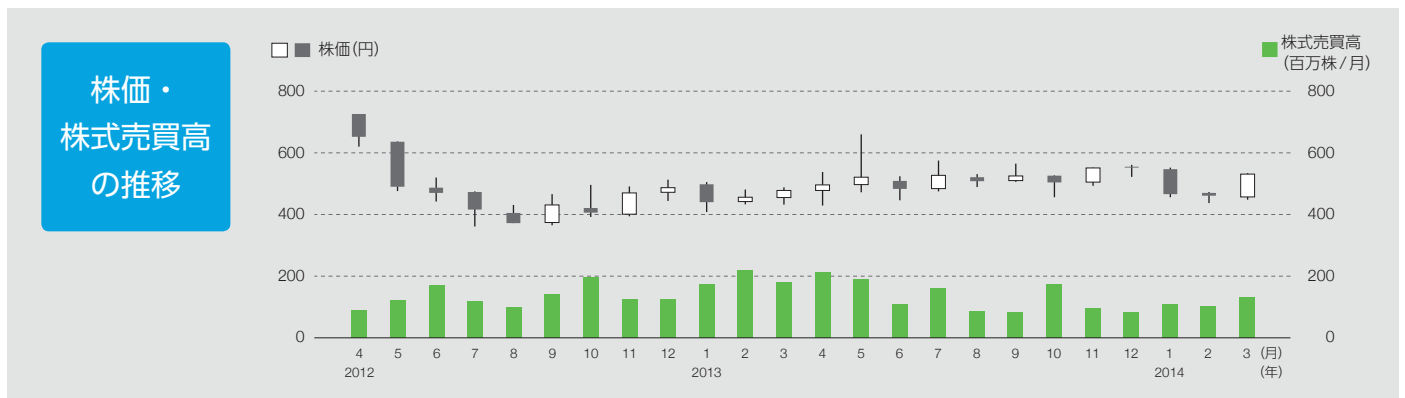
発行可能株式総数 1,200,000,000株
 発行済株式の総数 497,616,234株
 単元株式数 1,000株
 株主数 18,710名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ニプロ株式会社	84,687	17.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	30,823	6.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	26,259	5.3
SAJAP	11,633	2.3
株式会社滋賀銀行	8,089	1.6
THE BANK OF NEW YORK 133524	7,053	1.4
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	6,907	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	6,405	1.3
TAM TWO	6,027	1.2
BNPパリバ証券株式会社	5,455	1.1



■ 株主メモ

事業年度 毎年1月1日から同年12月31日まで
*事業年度の末日を3月31日から12月31日に変更しました。このため、第96期は2014年4月1日から同年12月31日まで(9ヶ月)となります。

定時株主総会 毎年3月
 基準日 定時株主総会関係・期末配当金支払関係 毎年12月31日
 中間配当金支払関係 毎年6月30日
*第96期の中間配当金支払関係の基準日は2014年9月30日となります。

上場証券取引所 東京(市場第一部)
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
 (郵便物送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)
 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
 (電話照会先) ☎0120-782-031
 (インターネットURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
 公告の方法 電子公告(<http://www.neg.co.jp/>)。ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株式に関するお問い合わせ先

内容	お問い合わせ先
支払期間経過後の配当金について	三井住友信託銀行(株) ☎0120-782-031
特別口座に関する事項 ^(※1) (特別口座から一般口座への振替請求等)	
氏名・住所等の変更	口座を開設されている証券会社等 * 口座を開設されていない方は 上記三井住友信託銀行(株)
配当金の受領方法(振込先等)の指定	
単元未満株式の買取・買増請求 ^(※2)	

※1 特別口座のまま売買等を行うことはできず、一般口座への振替えが必要です。

※2 当社での買取りまたは1単元(1,000株)に不足する数の株式を当社から買増することができます。
 なお、当社での手続きに係る費用は無料です。